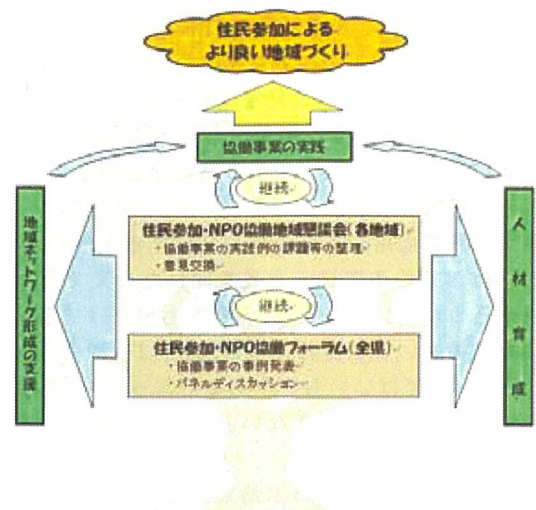


県民参加・NPO 協働フォーラム

～知恵と工夫 美しい県土づくりをめざして～

県民参加・NPO 協働フォーラムイメージ図

2月3日、盛岡市勤労福祉センターにおいて、県土整備部主催による「県民参加・NPO協働フォーラム」を開催しました。これは、昨年の12月から今年の1月にかけて盛岡、花巻、釜石、二戸地区を会場に開催してきた「住民参加・NPO協働地域懇談会」の全県版。当日は、国・県・市町村職員、NPO・地域づくり団体の方、約160名が参加し、県民参加による社会資本整備をすすめるにあたっての課題やNPO協働の方向性などについて意見交換を行いました。今後、「県民参加の推進プログラム」に基づき、県民協働の実践を通じて、地域ネットワークの形成や協働に必要な人材育成に努めながらより良い地域づくり取り組んでいきます。



↑ パネルディスカッションの様子→

← 橋本県土整備部長あいさつ



当日、参加できなかった方のためにパネルディスカッションの一部をご紹介します。

パネルディスカッション

住民と行政が協働でより良い地域をつくるために何が必要か？

コーディネーター

高井 昭平氏 いわてNPOセンター理事長

パネリスト

野村 晋氏 日詰商店街会長
 廣田 純一氏 グランドワークいわて代表理事
 摂待 幸夫氏 山口川をきれいにするネットワーク事務局長
 茶屋 隆氏 雪谷川を守る会会長

アドバイザー

山岸 秀雄氏 NPOサポートセンター理事長
 行政
 小田島正憲氏 岩手県県土整備部技監

…前半省略…

(高井氏)

岩手県はNPOとのガイドラインを作っているんですね。それと、県土整備部独自で「県民参加のガイドライン」を作り、また「県民参加の推進プログラム」を作っていることは、県土整備部は取り組みが進んでいるんだなと思いますね。山岸さん、この辺は全国的な水準から行くかどうか。

(山岸氏)

全国的といってもたいして知っているわけじゃないんですが、サポートセンターの理事をしている千葉と東京、それから埼玉ですね。埼玉県と千葉県はNPO立県ということで知事が宣言しているわけですけど、私はあまり薬が効いていないんじゃないかと、ある意味不満に思っています。

そういう風に言っているのが知事が悪いのか職員が悪いのか分かりませんが、そういうものは見たことないですね。あるのかも知れないけど有効に活用されていないですね。東京は、そういうものはあるのですが、書類は整えていて理論は非常にきちんとしているのですが、実際の協働の場でNPOの意見を聞くということはほとんどありません。自分たちが優秀だと思っているので、自分たちだけでNPOの政策をやって終わるということで、非常にNPOに対して冷たいです。

例えば緊急雇用対策交付金を交付するときも、全国的に他の県はNPOや県民の意見を聞いたうえでどういう事業をやるかということ、実質でも形だけでも聞くというのが結構多いですけど、東京の場合は一切やらないですね。政策としてはいいものがあると言っても、協働の指針があってもほとんど活かないということが多いと思います。

それがこちらではだいぶ効果をあらわしていると聞いていますし、いろんなところにこれからも効果が出てくるんじゃないかと思っていますので、期待しております。

理論があっても、それを実践に映すっていうのは難しいことですけど、これが努力の現われだと思っています。

(高井氏)

それでは、パネラーのみなさんは協働の事業を実践していただいたわけですけど、現場でどういう課題というか、参加の仕組みを作っていく中で、どういう風なことが改善されればもっと進むのか、3点ほどにまとめていただいて、一人3分以内で発言いただきたいと思っています。

それでは茶屋さんからお願いします。

(茶屋氏)

先ほどもお話ししましたが、「雪谷川を守る会」は流域が18kmということで、27行政区、1867世帯で携わっている方が非常に多いので、その方々をまとめるというのが一番の問題だと思っています。はじめて3年目になりましたのでみなさん協力的になりましたし、年中行事の一つとしてとり行ってきているようですけど、最初はみなさんやろうという意気込みがありましたので、これからが正念場だと思います。これから継続していく中で、新しいことにどういう風に取り組んでいくかということだと思います。

また、予算面ですけど、当初から会費を一世帯100円ということで、少しでしたけど貰っていたほうが、将来的に町の補助がなくなったときに、それを少しでも値上げする部分でやりやすいのではないかと考えました。最初はやはり反対もありましたけれど、そういった部分でこれからはNPOと連携して資金を集めることも考えていかなければならないと思っています。また、水質の検査とか水生植物の生息とかこれからは調べて、子供からお年寄りまでいつでも気軽に川に親しめるような環境の川づくりをしていきたいと思っています。

幸いにですね、白鳥が大水害の前に2羽ぐらい来ていましたけど、それが昨年あたりは24、5羽来て、今年は51羽飛来しました。おそらく住民の方々が親切に餌を与えて、あたたかく迎えてくれているからだだと思います。おそらく、これからいろいろな事業を展開していく上ではみなさんの協力が得られるのではないかと考えています。



(撰待氏)

一つは水質がきれいになるまでがんばってやりたい。あとひとつは、自治会の各家を何回も歩いているんですけど、それも歩かなければならないと思っています。それと、家庭雑排水がものすごく流れ込んでいるので、それを各家庭に呼びかけていこうと。あとは、県のほうには、堰とかありまして魚の遡上を妨げていること、また、河川内の土をとらないと台風等の時のことを考えなければならぬと思っています。

(廣田氏)

後川は、私と竹花さんと二人で一人前ということで、活動もまだ始まったばかりです。

3つの課題ということですが、当面の課題はひとつで、主体形成ということでして、当事者意識をどう調整するかということでありまして、3年間で山口川のようなネットワークの会を作って、行政が事務局をやらなくてすむような、真の協働型のネットワークをつくりたいと考えています。

1年目は、流域住民の方、企業、行政も最初から協力的なので問題ないですが、そういう方をできるだけ広く声がけて、ワークショップを通じて後川の現況を知って何が課題かというのをやっていこうと、ワークショップを4回やってきたわけですけど問題があります。

何かというと、こちら側として来てほしいなと思う人が必ずしも入って来ない。忙しい問題もあるし、意識の問題もあるし、いろいろと理由はあると思いますけど、その結果、ワークショップに参加している人達は当事者意識が出てきますけど、そうじゃないまだ誘わなければならぬ人達がいるということです。

具体的にいうと企業、商店街の方と、自治会で温度差がある。どこでもそうですが、必ずしも積極的でない自治会がある。ですから、現時点では、3年後にあるべきネットワークに入ってもらわなくてはならない人が参加できてないということです。これをどうするかが当面の課題だと思っています。

(野村氏)

課題というか感じたことをお話ししますが、日詰商店会の取り組みは商業の活性化ですが、行政の施策は環境改善です。商店会の活性化を道路行政に委ねるということですから、本来は結びつかないことです。理屈つけて何とかやったという形ですが、国土交通省から言えば、いかに無駄な車が来ないとか、車を通さないで安全を確保するというこ

とです。田舎の商店会は、人も来てほしいし車も来ないでほしいわけではないというところで少し温度差がある。それから道路の作り方も、大都会の基準と田舎は違っていいじゃないかという気がします、最近はそのような考え方も取り入れてくれるようになり、その点については歓迎しています。

それから商店会ではいろいろな問題を抱えています、商店街は閉鎖的な組織だと思っています。外部の方の意見は辛いので聞きたくないという意識があると思いますが、いろいろなワークショップを経験して、商業者、商業者以外の方といろいろ接してきて非常に意識が変わってくるというのをここ数年実感しました。評価していなかったんですが、ワークショップというのは非常に価値があるなと思いました。この方法をうまく利用して、あっちこっち向いている人をこっちに向けてとか、地域について見下したりしている人に対して別の見方になってくる、都会から入ってきた人が全く意識が変わって目線が一緒になるということでワークショップには不思議な魅力があると感じています。やはりいろんな形で有効活用した方がいいと思います。

(高井氏)

はい、ありがとうございます。

誰ひとりとして行政に対して、あれをしてほしいこれをしてほしいと文句を言う人はいませんね。成功の事例というのはこういうものなのでしょうね。みなさん、自分たちでやっているという意識がベースにあれば、必ず事業が成功する。今日、答えが出ましたね。

(省略)

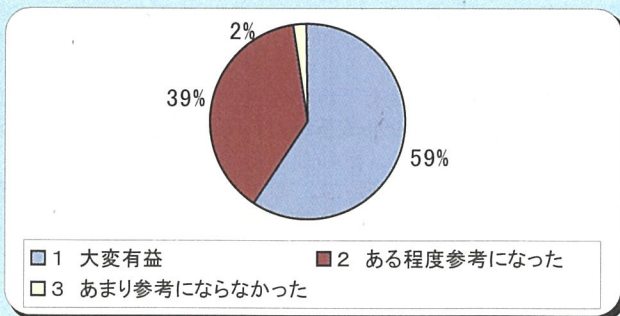
(高井氏)

答えを聞いてみると、やり続けること、ほんの少し他人を思いやること、これが多分成功への秘訣かなと思います。

行政を代表しまして、小田島技監より、みなさんの討論を踏まえて、これから市民に期待していくのか、また、今日お集まりの行政のみなさんに期待することを伺いたいと思います。

フォーラムに関する意見・感想、今後の県土整備部の県民参加への取組みに対するご意見

問：今回のフォーラムは、今後の地域での活動や業務の参考となりましたか？ (回答者数=94名)



◇ 地域課題解決するには、単に予算で解決するだけではない仕組みが分かり良かった。



(小田島技監)

行政が社会資本整備をはじめから完成して利用するまで、3つの段階があるんですね。今日の話をお聞きすると、計画段階では日詰商店会さんのように社会実験をしながら街づくりのプランづくりを行って、実際にこの街に当てはまるかどうかをやられている。それから後川の河川ではこれからどう出来たものを管理・維持していくか、あとどう利用していくかという市民参加を求めていくというものです。また、山口川さんはものすごく歴史があるなと思っていました。それは今日のデータを見ましても、県では5年ぐらいのデータしかないですが、10年ぐらいのデータをお示しいただいて、それをバロメータに水質を保って、水質を保つためにどうしたらいいかなと、県なり本来行政が行わなければならないパトロールを住民の方にやっていただいている。非常に行政にとってありがたい市民活動だと思っています。それから、雪谷川ですけど、平成11年に災害がありまして、茶屋さんはそのときの事業、用地をまとめていただいて尽力いただいて、また、完成した物の緑を守ったり、水質を改善したり、河川を利用したり、活躍していただけるということで、市民のみなさんにはいろんな段階で参加していただけるということで、県としましてはこういった事例、団体を行政が受け止めて、自分のものにして地域のために貢献するシステムを構築していきたいと考えています。

(省略)

- ◇ 成功や失敗した理由、苦勞談をおりませでの事例発表でよかった。今後、もっと取り組んでほしい。
- ◇ 今後の事業推進にあたり、事業個所を決定する前に住民参加の会を開催して、事業に対して地元(県民)の意見を良く聞いてからしたほうが良い。
- ◇ 部をあげて県民との協働に取り組んでいる姿勢が職員に浸透しつつあると思う。
- ◇ NPOが参画する場合、そうでない場合との参加にいたるまでのプロセスがわからない。NPOと行政の連携のあり方がわからない。住民参加をうながす手段やワークショップでの意見の集約はどの様にするのか。またの開催を希望。
- ◇ 振興局レベルで、どんどん取り組んでほしい。その場合、他の部局との連携のもとに進めてほしい。県土整備部の職員1人ひとりがNPOを理解し、また1市民としていろいろNPO活動に参加するように努力してほしい。